VOICES from the ARCTIC

Vol.48／ 2025.3.7

ArCS II 国際政治課題
北極域実践コミュニティ事務局

北極域の緊張とNATOの拡大の中、北欧投資銀行が防衛分野に軸足を移す

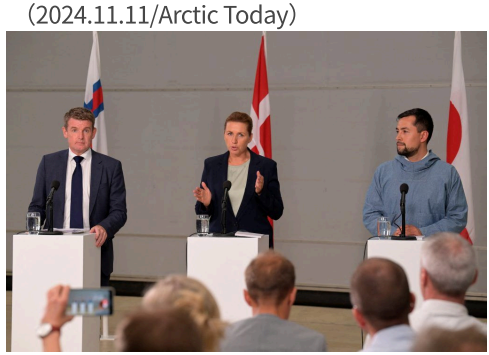
北欧投資銀行（NIB）は、防衛関連産業への融資を認めるという大幅な政策転換を行った。この決定は、特にロシアによるウクライナ侵攻と北極域での軍事的プレゼンスの拡大を受けて、地政学的な懸念が高まっている状況下で行われた。また、スウェーデンとフィンランドが最近NATOに加盟したことで、地域の安全保障への注目が高まり、北欧およびバルト諸国はレジリエンスと防衛を優先するようになった。この政策変更は、デュアルユースプロジェクトを含み、武器や弾薬に関連する資金調達を一切除外していたNIBのこれまでの防衛投資に対する制限からの転換を意味する。NIBにとって、この更新された政策は、ロシアの行動に対する戦略的な対応であるだけでなく、複雑化する安全保障環境に適応するために加盟国を支援するというコミットメントでもある。

記事参照：Nordic Investment Bank pivots to defense amid Arctic tensions and NATO expansion - ArcticToday（2024.11.6/Arctic Today）

フェロー諸島が北欧協力からの離脱を示唆

High North News によると、フェロー諸島とグリーンランドは、北欧諸国の主要な外交および安全保障政策関連の会合から排除されたことに強い不満を示し、北欧理事会および北欧閣僚理事会への正式加盟が認められない限り、北欧諸国の協力関係から離脱すると警告したと報じた。

記事参照：Faroe Islands threaten Nordic cooperation exit - ArcticToday（2024.11.11/Arctic Today）



Credit: 2024年8月27日、デンマーク、ユトランド半島、オールボー空軍基地での国家会議後の記者会見に出席したフェロー諸島首相Aksel V. Johannesen、デンマーク首相Mette Frederiksen、グリーンランド自治政府Naalakkersuisutの首相Mute Bourup Egede。
Ritzau Scanpix/Rene Schutze via REUTERS

北極域での、ロシアと中国の「友好関係」にスポットライトが当たる

ロシアも中国も北極域に関心を持っているが、その視点と歴史は大きく異なっている。ロシアは北極域に法的に認められた膨大な領土を有し、潜在的に出現する可能性のある航路を支配するために統治メカニズムの解釈の違いを活用しようとしている。 中国は北極域諸国の国家主権を正式に承認しており、新興のグローバル大国としてこの地域における自国の利益を日和見的に主張している。商業事業や貿易協定、インフラ投資、科学協力、公海上での存在感の増大、そして将来的には海底での活動も視野に入れながら、この地域での足がかりを求めている。
記事参照：Arctic region shines spotlight on Russia, China 'friendship' - ArcticToday（2024.11.12/Arctic Today）

砕氷船が米国の北極戦略の試金石となる理由

米国沿岸警備隊は、米国が北極域国家であると述べている。しかし米国が北極域の国家として真剣に受け止められたいのであれば、北極域への重点的な投資を強化する必要があると専門家は指摘している。現在精査されている大規模な投資のひとつは砕氷船である。米国が北極域で重要視されるためには、砕氷船団をアップグレードする必要があるのは明らかだという。
記事参照：How icebreakers are becoming the litmus test for the U.S. Arctic strategy - ArcticToday（2024.11.13/Arctic Today）

ノルウェーが国際的な海底ケーブル構想に参加する中、妨害工作の脅威が迫る

バルト海で2本の海底通信ケーブルが損傷したというニュースが流れた1日後、ノルウェー政府は本日、海底通信の安全保障に関する国際イニシアティブを支持すると発表した。「グローバルにデジタル化された世界における海底ケーブルのセキュリティと復元力に関する共同声明」は、今年9月末に開催された第79回国連総会で採択された。

バルト海で損傷した2本の海底ケーブルの状況は明らかになっていないが、多くの専門家や政府関係者は、妨害工作の疑いがあると見ている。そのうちの1本は、フィンランドとドイツを結ぶ全長1,173キロメートルのC-Lion１ケーブルである。

バルトコネクター（Balticconnector）パイプラインが中国とロシアの船Newnew Polar Bearによって切断されたのは、この被害から1年後のことである。 ここ数年、他にもいくつかの疑わしい事例が記録されている。
記事参照：Sabotage threats loom as Norway joins international subsea cable initiative - ArcticToday（2024.11.2/Arctic Today）

ノルウェーはEUおよび英国と複数の主要な海底ケーブルで接続されている。（Photo: Nexans.no）

フィンランド バレンツ協力から離脱する最終手段に

フィンランド政府は、欧州の安全保障情勢の変化を理由に、2025年以降はバレンツ・ユーロ北極評議会（BEAC）から脱退する意向であると発表した。Elina Valtonen外相は、フィンランドは北部地域における他の協力方法に重点を置くつもりだと述べた。
記事参照：Finland takes final move on Friday to leave the Barents cooperation - ArcticToday（2024.11.22/Arctic Today）

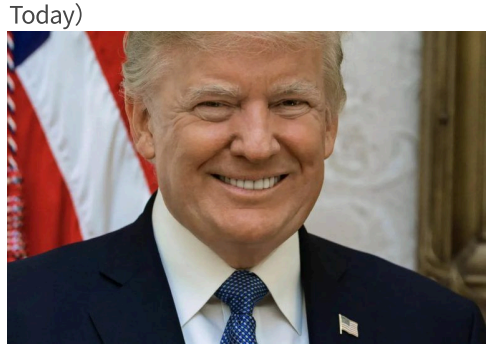
トランプ再選の不透明感の中、カナダが新たな北極政策を打ち出す

CBCニュースは、カナダ政府がイヌイットの指導者たちと協力し、年内に発表予定の新たな北極域外交政策の最終調整を行っていると報じている。この政策は、ドナルド・トランプ氏が米国大統領に再選される可能性への懸念や、それが北極圏関係に及ぼす影響など、世界情勢の変化を背景に策定されている。ロシアや中国などの国々からの国際的な関心が高まる中、カナダは自国の主権を守り、先住民の視点が北極圏戦略の中心となることを確保する必要性を強調している。
記事参照：Canada sets new Arctic policy amid Trump re-election uncertainty - ArcticToday（2024.11.15/Arctic Today）

「米国第一主義」の復活？ トランプ大統領の2期目における北極の位置づけは？

トランプ大統領の「米国第一主義」スローガンは、大統領2期目、特に東西・南北で分断された世界でどこまで生き残ることができるのだろうか？この政策が具体的に全国的な成果をどのようにもたらすかについての明確な言及はないにせよ、簡単に言えば、アメリカの国益を守ることであり、対外政策と対置され、前者を優先することである。言い換えれば、外交政策を再編成することであり、それはまずアメリカの国策目標と国益に資するものでなければならない。

　トランプ氏は、北極域を個別に重視するのではなく、NATOを中心とする大西洋横断的な枠組みの一部として、欧州北極域の同盟国と、より自立した相互利益的な安全保障協力と戦略の構築を目指すとみられる。
記事参照：The revival of 'America First'? Where does the Arctic stand in Trump's second term? - ArcticToday(2024.11.25/Arctic Today）


ドナルド・トランプ大統領. Photo: Whitehouse.gov

注目すべき研究：地球規模の圧力集中の中、北極の多様性はその影響に耐えられるか？

現代のテクノロジーが異なるコミュニティ間に亀裂を生じさせる場合、現存する「多くの北極の声」は脅威にさらされる可能性がある。北極域のコミュニティの中には、通信環境が整っているところもあれば、基本的な通信手段さえ欠如しているところもある。こうした格差は、北極域における社会経済変化の管理の複雑さを浮き彫りにしており、地域事情の相違が大きくなるにつれ、この地域での協力がより難しくなる可能性を示唆する。
記事参照：Research in Focus: Can the Arctic's diversity withstand the impact of converging global pressures? - ArcticToday（2024/11/21/Arctic Today）

「海洋生態系に劇的な変化が起こっている」

スヴァールバル諸島にあるコングスフィヨルデン（キングス湾）は急速に温暖化している。「2002年以来、水温は全体的に上昇傾向にあり、毎年0.1℃ずつ上昇している。つまり、過去20年間で水温は約2℃上昇している」と、ノルウェー北極大学の所有する研究船ヘルマー・ハンセン号の探検リーダーであるJørgen Berge 氏は語った。
記事参照：'We see a radical change in the marine ecosystem' - ArcticToday(2024.11.19/Arctic Today）

ヌークの新空港が開港 グリーンランドの観光が変貌を遂げる

グリーンランドの首都ヌークは、拡張された国際空港の開港により、北極圏旅行の中心拠点となることを目指している。2,200メートルの滑走路と近代的なターミナルを備えた新しい施設は、11月28日に運用を開始する。
　滑走路の延長により大型航空機の離着陸が可能になり、ヨーロッパや北米からの直行便が利用できるようになる。空港の拡張により、グリーンランドへの観光と経済発展が促進され、旅行者は同島の独特な景観や文化体験にこれまで以上に便利にアクセスできるようになることが期待されている。
記事参照：New Nuuk airport opens, transforming Greenlandic tourism - ArcticToday（2024/11/27/Arctic Today）

エア・グリーンランドのエアバスA330-800はヌークとコペンハーゲンを結ぶ。(Joan Valls / Urbanandsport / NurPhoto via Reuters Connect)

2024年の海氷 ― 新たな異常

2024年の北極海の夏の融解シーズンは、近年と比較すると比較的穏やかだったが、面積は過去数十年間と比較すると大幅に減少した。極端な現象は見られなかったものの、注目すべき出来事はいくつかあった。まず、北西航路では、海氷がほぼ完全に消滅した。Canadian Ice Serviceの分析によると、船舶の航行に適したより広大で深い北西航路は、観測史上最小の面積を記録した。北西航路は過去にも氷の少ない年が何度かあり、晩夏にはほぼ開通していたが、航路の水路に氷が流れ着くと、全体的な氷の量が減少していても航行の妨げとなることがある。
記事参照：Sea ice in 2024 – the new abnormal - （2024.11.6/Arctic Today）

南グリーンランドのイノベーション：北極域の課題をチャンスに変える

南グリーンランドでは、北極域特有の広大で人口の少ない地形、高いインフラコスト、熟練労働者の確保など、この地域の経済成長は大きなハードルに直面している。こうした課題に対処するため、イノベーション・サウス・グリーンランド（ISG）は地域の成長を促進し、産業間の結びつきを強めることを使命として2019年に設立された。この組織は、自治体経営から独立して運営されるよう意図的に構成され、より迅速な意思決定と民間セクターとの連携により重点を置くことを可能にした。
記事参照：Innovation South Greenland: Turning Arctic challenges into opportunities - ArcticToday（2024/11/14/Arctic Today）

『北極域実践コミュニティ VOICES from the ARCTIC』は、北極域実践コミュニティの情報発信の活動の一環として、北極域の多岐にわたる社会的課題やその解決に向けた取組に関連するニュースを集めて、ダイジェストしたものです。北極域の社会的課題と世界的な課題との関連性を示すため、国際連合『持続可能な開発目標（SDGs）』の17の目標との対応関係を各ニュースに付しています。

【編集後記】
Vol.48は、2024年11月のニュースを掲載しています。
ロシアが脱退していたバレンツ・ユーロ北極評議会からフィンランドも北欧側としては最初に脱退することを決めました。欧州北極域における将来の協力の受皿が存続する可能性がまた一つ減少することになります。（大西）

発行元：ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局
監　修：大西富士夫（北海道大学北極域研究センター）
E-mail：tdcop@arc.hokudai.ac.jp
WEBサイト：https://tdcop.arc.hokudai.ac.jp/